

平成22年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会 「都城区域」 議事概要

1. 実施日 平成22年7月23日(金曜日) 15:15~17:15
2. 場所 農林水産省農村振興局第4会議室
3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
" 安藤 光義 東京大学大学院准教授
" 川口 道子 (有) 鈷脈社専務取締役
" 山路 永司 東京大学大学院教授
(敬称略、五十音順)
事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
(独) 森林総合研究所森林農地整備センター審議役 他

4. 技術検討会の概要

- (1) 委員長選出
委員長に山路委員を選出した。
- (2) 事後評価(案)について事務局より説明。
- (3) 意見・指摘等
技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめられた。
 - ① 区画整理等の実施が、農業構造の改善をもたらしたと考えられる。農地の整備は、農業投資意欲を喚起し個別経営体としてより効率的な農業を目指す受益者を生み出す一方、整備されたほ場条件のメリットを活かす集落営農を構築する動きにも繋がっている。
 - ② 土層改良によって、連作障害を解消し、根菜類の外観を良くし、商品価値の高い農産物の生産に寄与していることも確認された。
 - ③ 農業用道路については、生産物の出荷や家畜市場への搬送等に対して有効に整備されており、輸送効率を高め、営農労力を軽減していることが確認された。
 - ④ 農業用道路の路線選定が良く、本農業用道路から都城市街の眺望景観が良い箇所もあり、環境に配慮したトンネルの整備も心をなごませる。
 - ⑤ 本事業による経営体の耕作範囲の拡大と大型機械の導入は、飼料作の作業受委託を増進し、自給飼料生産を増大させている。水田裏作のイタリアンライグラスの栽培面積の急増も注目される。さらに、自給飼料基盤を生かした子牛のブランド化も達成されている。

以上のことから、本区域において、農用地総合整備事業の特徴を生かし、都城区域の農村環境が有する高い潜在力を地域の人々の福利(Well-being)に結びつけるための重要な社会基盤が整備されたと考えられる。